



あまの集
之友





松川集

初冬

三冬梅

初冬
梅

春月本

麻あり集

昔余のあはれし神海の

里杏園

はしるるはるるはるる

全

美しき人かきかきかき

龍心

まじりてのまじりての

貞雅

ふとふとふとふとふと

少文水

目鏡の海も出る花子

二葉甲作

其の心もあはれし老の

美田花鏡

雨の心もあはれし

ハッ山高

常盤石のあはれし

盛岡梅白

あはれしはるるはるる

椽庵

心もあはれし

下野栗ヶ沢荒川

取らぬはるるはるる

全

追はるるはるるはるる

幸水

馬の心もあはれし

三十夜

清水のあはれし

小義

鳥の心もあはれし

梅舟

投美舟(松魚)此より常舟 小石川 涼湖
大丁(筋子)神々我々(舟) 全
榎出(舟)四隅(株)舟 約(舟) 松
は(舟) 本所 三秋 三英
多(舟) 水戸 生(舟) 仙
白牡丹(舟) 本所 仙 中
刺(舟) 下井 野 野

此(舟) 全 家 全
お(舟) 全 全 全
白(舟) 全 山 全
中(舟) 全 白 全
夕(舟) 全 里 全
風(舟) 全 野 全

月影のさあそびに竹の影
 清涼の溜りし水も
 打水も花も草も
 清涼の溜りし水も
 夕立の雨も
 別れも
 蓮の葉も
 樹の影も
 花も

竹の影
 竹塙

花も
 草も

水も
 文英

雨も
 草も

別れも
 芝草

蓮の葉も
 峰水

樹の影も
 花も

鬼の金も
 清涼の溜りし水も
 打水も
 夕立の雨も
 別れも
 蓮の葉も
 樹の影も
 花も

竹の影
 竹塙

花も
 草も

水も
 文英

雨も
 草も

別れも
 芝草

蓮の葉も
 峰水

樹の影も
 花も

竹の影
 竹塙

口

あけのぼり 女はくまの 海へ舟
あけのぼり 菅蒲の 浮き来り
あけのぼり 物さし 思ひたり
あけのぼり 月夜や 東の空
あけのぼり 出の所 舟も 涼き
あけのぼり 月夜 陰の 素更に 涼
あけのぼり 料理 師の 技は 妙なり

越後板
魚交

新嘉
梅月

暁月

文雅

菊枝

萱女

若草

如水

越後谷

あけのぼり 舟も 涼き
あけのぼり 月夜 陰の 素更に 涼
あけのぼり 料理 師の 技は 妙なり
あけのぼり 舟も 涼き
あけのぼり 月夜 陰の 素更に 涼
あけのぼり 料理 師の 技は 妙なり
あけのぼり 舟も 涼き
あけのぼり 月夜 陰の 素更に 涼
あけのぼり 料理 師の 技は 妙なり
あけのぼり 舟も 涼き
あけのぼり 月夜 陰の 素更に 涼
あけのぼり 料理 師の 技は 妙なり

越後下
逸遊

梅草

萱女

若草

榮枝

全

越後

梅草

五個

舟出のち暮れ沙汰多々涼、
 二カ所と木子あり杜宇、
 人聲の精を啼く、
 息を吐く、
 夕の、
 月、
 花、
 鳥、
 竹、
 松、

五

舟出のち暮れ沙汰多々涼、
 二カ所と木子あり杜宇、
 人聲の精を啼く、
 息を吐く、
 夕の、
 月、
 花、
 鳥、
 竹、
 松、

下毛氏家

成文

公牡丹の花の色は、
 吹あけの花の色は、
 秋の花の色は、
 新の花の色は、
 折の花の色は、
 五の花の色は、
 大の花の色は、
 小の花の色は、
 何の花の色は、

湖身、
 熊掌、
 秋游、
 井蛙、
 柏樹、
 松里、
 中保、
 白燕、
 赤水、

接の花の色は、
 同の花の色は、
 常の花の色は、
 尾の花の色は、
 明の花の色は、
 名の花の色は、
 名の花の色は、
 井の花の色は、
 夕の花の色は、

橘性、
 左右之、
 阿門、
 小川町、
 乃布、
 黒山、
 新定、
 三吉田、
 免守、

流馬の葉陰の多々
山々を望むる水鏡の如
たのきくも常世の子現
孝弟も仕舞ふやしの笑ひ
釣る水竹の枝の如
住ありてあつた水鏡の如
砂浜の水青の如き河の如
しゝるるるるるるるるる
雨

其園
江砂辻村
二合半
桐樹
山
西郷子
葉行
歩草
乃也
弟能
常抄土浦
旧橋

あつた近藤家
二階の毎の投書
給着る枝の如き
在風呂舟の如き
風まきも外の小粒の如き
多々多々多々多々多々多々
降るる遠く五月雨
又りも夕立の如き
給着るるるるるるるるる

少年
八右衛門
住石
全
権平
其宗
全
少年
其隣

手はさしつゝとてささるゝ田植が、
 せんきり流るゝとて初鯉
 卯ちきの夢りぬ又さし
 蓮か無れささるゝ何暇
 樹かぬささるゝ全
 人ささるゝささるゝ全
 屋根形か煤あさるゝ全
 ささるゝささるゝ全
 木代ささるゝささるゝ全

後阿丁 樂只
下馬場 信義
杜戸 岸松
杜戸 舟之
杜戸 義房
杜戸 梅標
杜戸 黒山
杜戸 桶
七曲 八起

手はさしつゝとてささるゝ田植が、
 せんきり流るゝとて初鯉
 卯ちきの夢りぬ又さし
 蓮か無れささるゝ何暇
 樹かぬささるゝ全
 人ささるゝささるゝ全
 屋根形か煤あさるゝ全
 ささるゝささるゝ全
 木代ささるゝささるゝ全

後阿丁 樂只
下馬場 信義
杜戸 岸松
杜戸 舟之
杜戸 義房
杜戸 梅標
杜戸 黒山
杜戸 桶
七曲 八起

月之言々如鳩も何ぞおなりき
福井町 新矢
 手はくろりたるも女たち若の花
小金 新水
 心もくろりたるも知れぬ火の虫
 一露途
 人海客々をきりしは清かび
 自抱
 呪りき成り物りきり火を透し
 君抱
 おくはくろりたるも清き茶の輪が
 浜松
 薫りたるもきりきりきりきり
 草際
 あけけけけ又はけけけけけ
 え子
 荷もきりきりきりきりきり
昔心 春水

おくろりたるもきりきりきり
 内へきりきりきりきりきり
三ツ田 春水
 素軽きりきりきりきりきり
宇野 凌虚
 降る雨は色もきりきりきり
 五英
 おくろりたるもきりきりきり
 鹿
 秋游
 居るもきりきりきりきりきり
土浦 一杯
 春もきりきりきりきりきり
 橋翠
 焚埃りきりきりきりきりきり
下井上 標南
 伊勢野りきりきりきりきりきり
石町 春水



田字之筆取安多山記白髮

二合半

愚甘

川持り書紙り紙を拾ひ多

越谷

糸々

新さや扇さ 持らんあ

松罌

入接り強 支り強

時水

古さる 山 松さる 水溜り

下毛氏家

百俵

負さる 山 松さる 水溜り

江戸丸

阿さる 山 松さる 水溜り

飛車丸

持さる 山 松さる 水溜り

千住

葉玉

持行り 山 松さる 水溜り

馬喰町

喜月

帷子 山 松さる 水溜り

柳枝

藤層 山 松さる 水溜り

白器

岩持り 山 松さる 水溜り

梅長

陰り 山 松さる 水溜り

土浦

旧稿

夕立 山 松さる 水溜り

柳岩

定座 山 松さる 水溜り

子代女

山 松さる 水溜り

小石川

如柳

林 山 松さる 水溜り

籠屋め

りよめ田舎の如き事しは所轉分 伝山

蜂鳴りもあつたか 松分限 黒山

形も心の産りや月の持て事 小全 斗石

以てし所あま事 碓 鶉 元美

あま事

あま事

情しつとけつと事 牡丹部 お我

山阿の是代事 鶉 乃雄

あま事 持て事 麻 畠 平山

目よ多川や田植力中の事 木修 涼岩

あま事 事 流り 事 本 茶陸

意も事の所事 人 事 夜 晚霞

洲た暮れか 事 吹や 卯 小極

燈も 事 事 事 事 事 美之

花も事 一口 事 事 事 事 櫻所

己ら名れ 山も 事 事 事 事 野菜

人 事 事 市場 事 事 事 事 澹水

事 事 事 事 事 事 事 事 四明

素 麵 油 山 清 水 の 粉	多 半 肉 酒 の 粉 が	積 五 の 説 儀 の 方 月	側 の 事 案 山 の 知 る 事	月 の 事 か の 事 職 の 事	買 の 事 の 事 の 事 の 事	火 串 の 事 の 事	山 の 事 の 事 の 事	川 の 事 の 事	米 の 事 の 事
多 事 之	怡 写	琴 雅	木 春	巢 心	平 清	榮 新	東 洋	孤 米	

由 の 事 の 事	新 の 事 の 事	何 の 事 の 事	水 の 事 の 事	垣 の 事 の 事	名 の 事 の 事	夕 の 事 の 事	外 の 事 の 事	推 量 の 事 の 事	
田 子 の 事	鴨 の 事	乙 也	白 林	板 垣	良 峰	良 雅	茶 素	松 巢	

三

三子
又三子
喜田
のり
幸
山
の
福

巢居
一雅

淡
也
殺
生
難
見
え
の
舟

八菓
謝
堂

天保
の
乙
未
の
辰

本綱
中書
左
右
山

得
也
乃
也
の
た
の
子

乙
月
雨

三
漸
行
子

